2012年3月期決算説明

2012年5月28日

山一電機株式会社

（証券コード　6941）

ご説明内容

【1】山一電機について

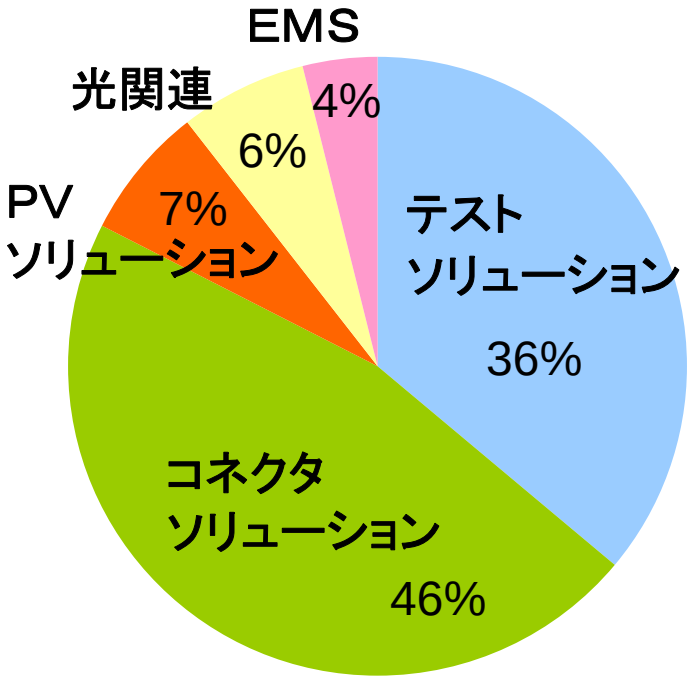
【2】FY2011業績について

【3】FY2012業績見通しについて

【4】今後の成長戦略について

山一電機について

【売上高構成比 FY2011】



●概要

本社	東京都大田区
設立	1956年11月1日
資本金	10,047百万円（株式 23,289千株)
従業員数	455名 （グループ 3,517名）
	※2012/ 3現在、派遣社員除く
拠点	国内 5社（8拠点）、海外13社（15拠点）

●創立55年の接触機構部品メーカー

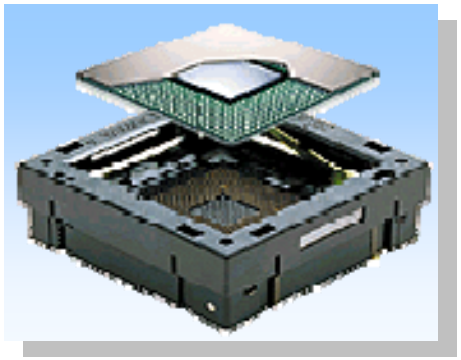
バーンインソケット（世界シェア40%）の最大手
コネクタはメモリカード・高速伝送に強み

●海外比率

売上比率59%、生産比率86%（FY2011）
開発・生産・販売をグローバルに展開
海外マネージメントはローカル比率が高い

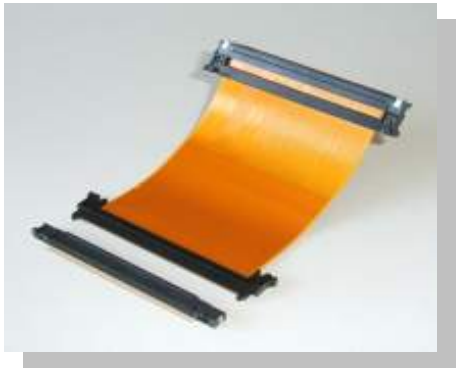
事業および製品紹介

■テストソリューション（TS）事業



・バーンイン検査用ICソケット
・テスト用ICソケット
・プローブピン
・プローブカード
・半導体テストサービス

■コネクタソリューション（CS）事業



・メモリーカードコネクタ
・高速伝送用コネクタ
・実装用ICソケット
・YFLEX™
（フレキシブルプリント配線板）

■PVソリューション（PS）事業



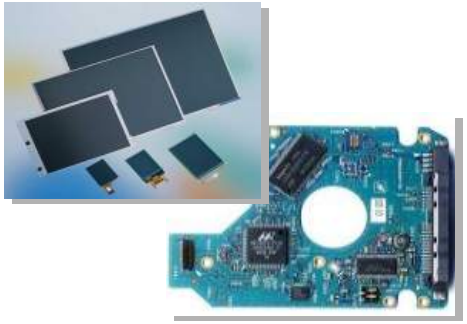
太陽電池モジュール用
・コネクタケーブル
・ジャンクションボックス

■光関連（OPT）事業



・光学薄膜フィルタ
・半導体レーザ光源
・光モジュール

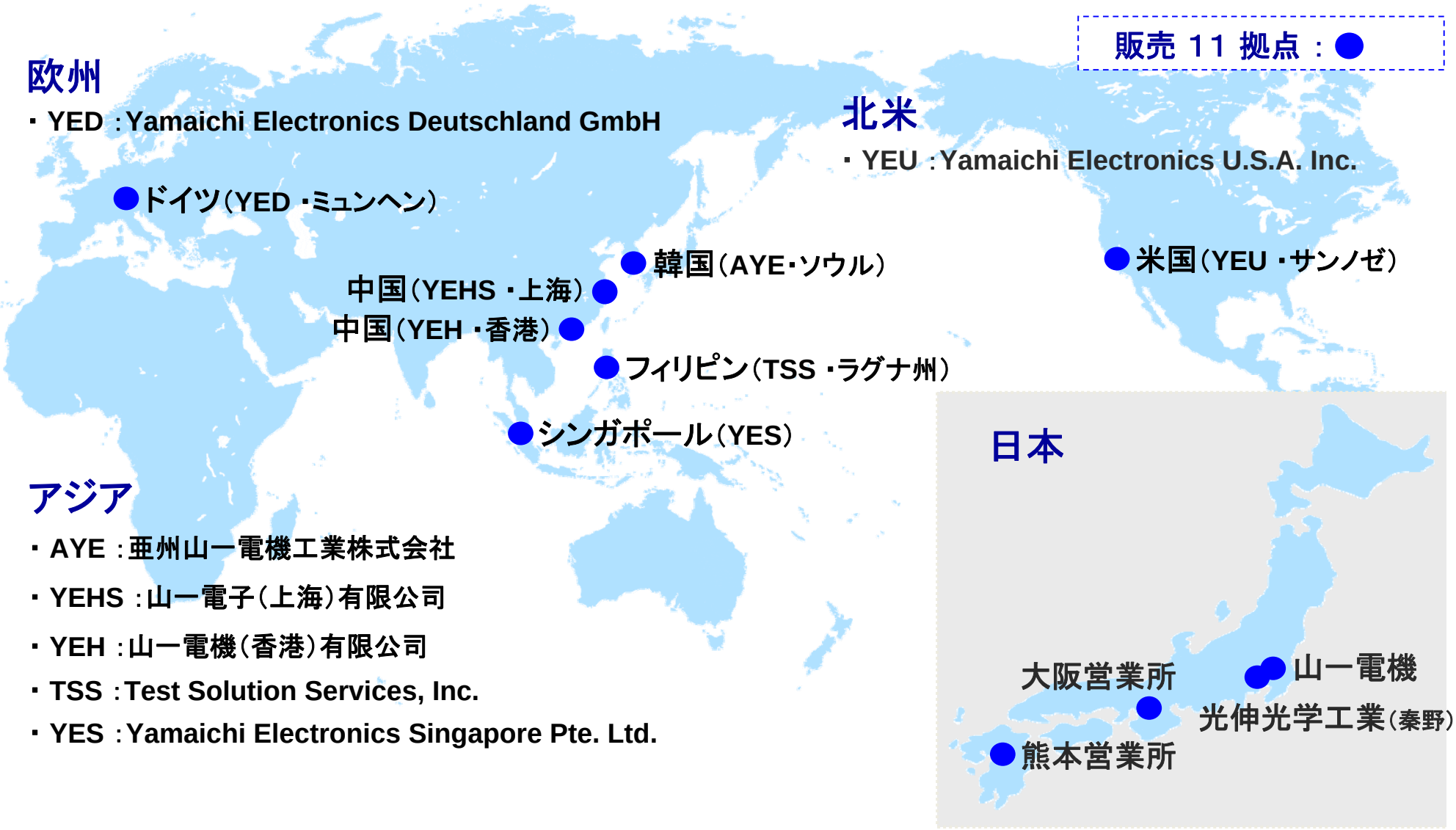
■EMS事業



・液晶パネル組立
（ 国内　マティ ）
・基板実装サービス
（ フィリピン PMI ）

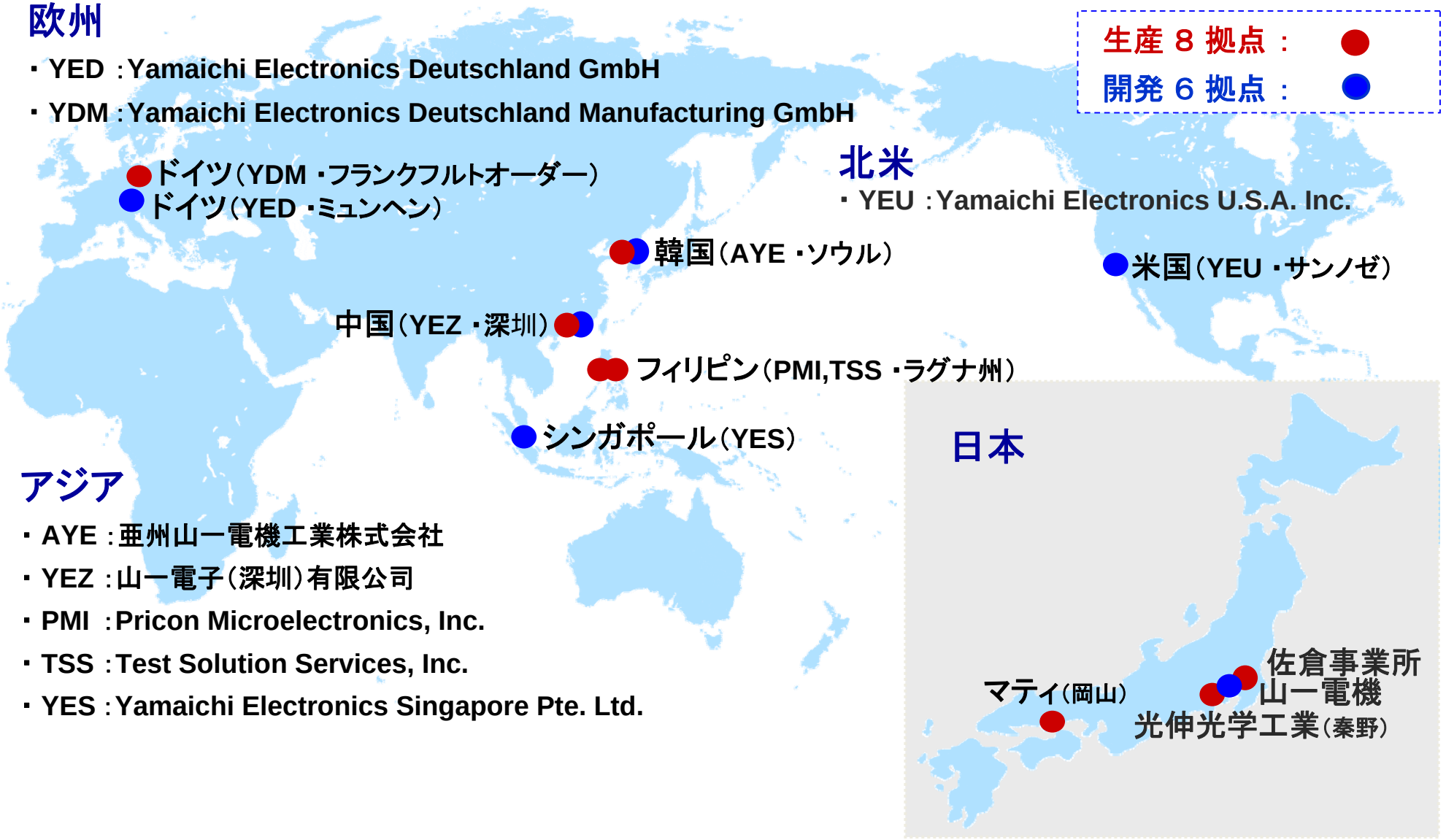
グローバルネットワーク

販売拠点



グローバルネットワーク

生産/開発拠点



欧州

- YED :Yamaichi Electronics Deutschland GmbH
- YDM :Yamaichi Electronics Deutschland Manufacturing GmbH

北米

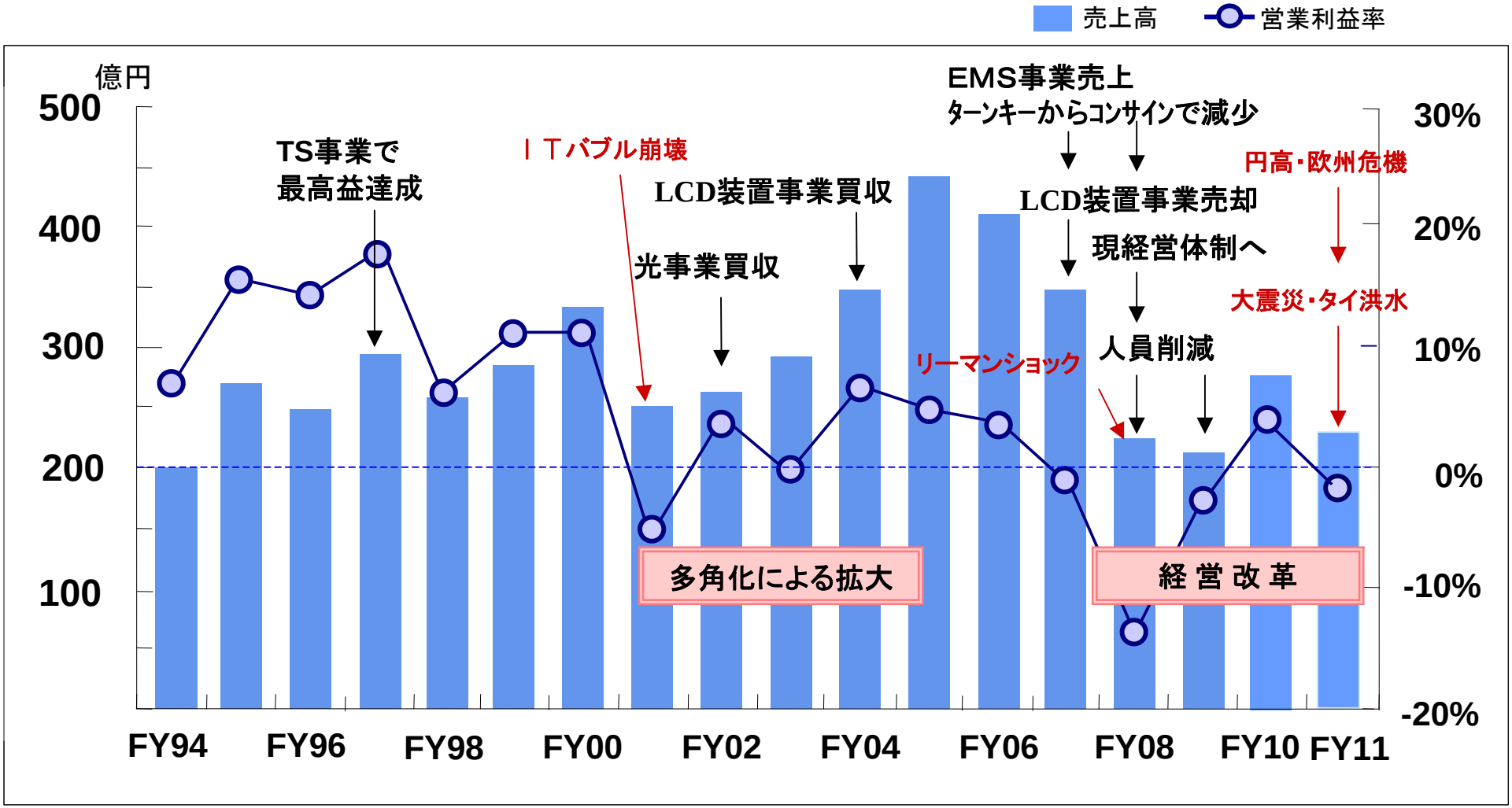
- YEU :Yamaichi Electronics U.S.A. Inc.

アジア

- AYE :亜州山一電機工業株式会社
- YEZ :山一電子(深圳)有限公司
- PMI :Pricon Microelectronics, Inc.
- TSS :Test Solution Services, Inc.
- YES :Yamaichi Electronics Singapore Pte. Ltd.

長期的な業績の推移

経営改革により黒字体質へ転換を目指す



ご説明内容

【1】山一電機について

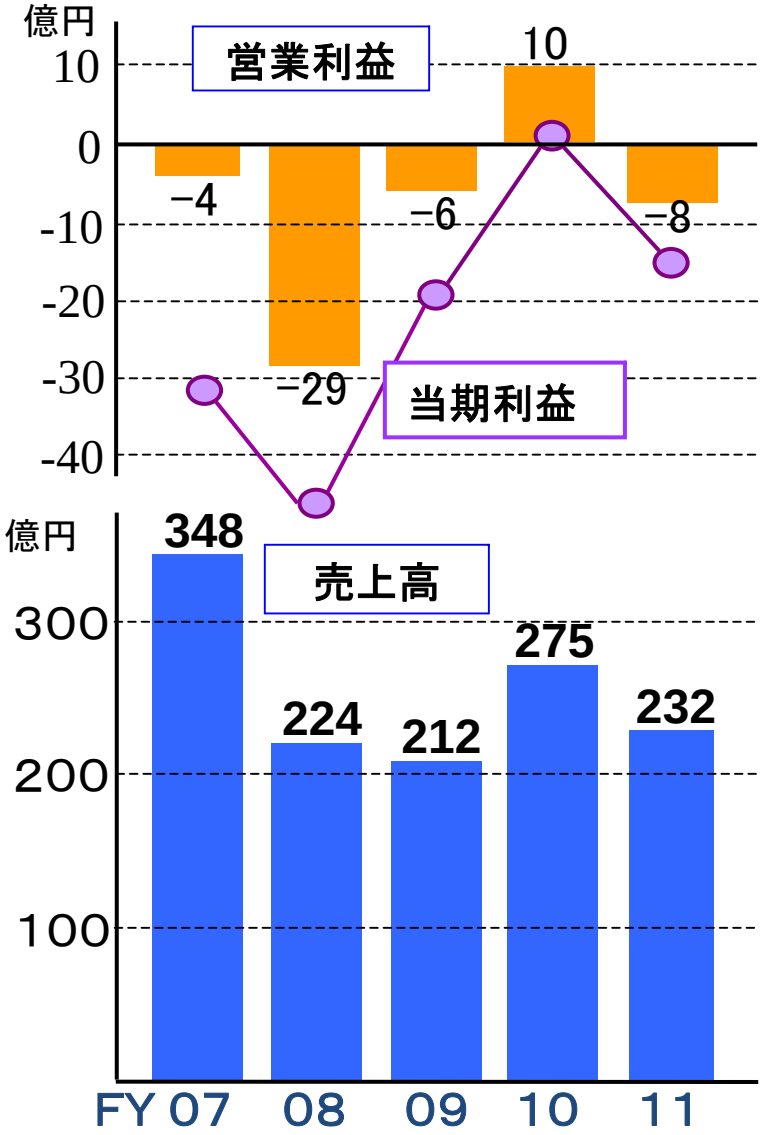
【2】FY2011業績について

【3】FY2012業績見通しについて

【4】今後の成長戦略について

FY2011業績結果について

東日本大震災・タイ洪水・PV市場の崩壊などが業績を押し下げ



（単位：億円）

	FY10	2月予想	FY11
売上高	275	231	232
（売上原価）	204		179
売上総利益	71		52
（販売管理費）	61		60
営業利益	10.0	△5.0	△7.7
（営業外損益）	△6.3		△0.2
経常利益	3.7	△10.0	△7.9
（特別損益）	2.2		△5.8
（法人税等）	△4.3		△1.7
当期純利益	1.6	△12.0	△15.4

売上
　前年比16%減
　PS、CS、EMS売上減

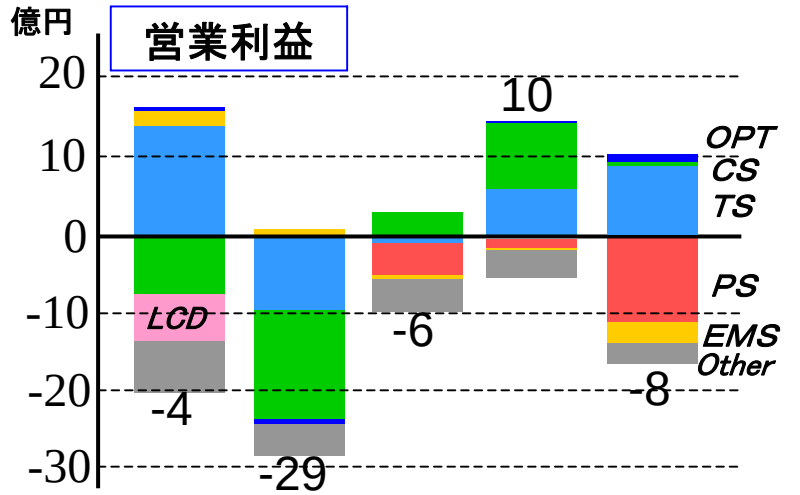
営業利益
　貸倒等引当
　　1.1億円
　固定資産有姿除却
　　1.1億円
　在庫評価減
　　0.5億円

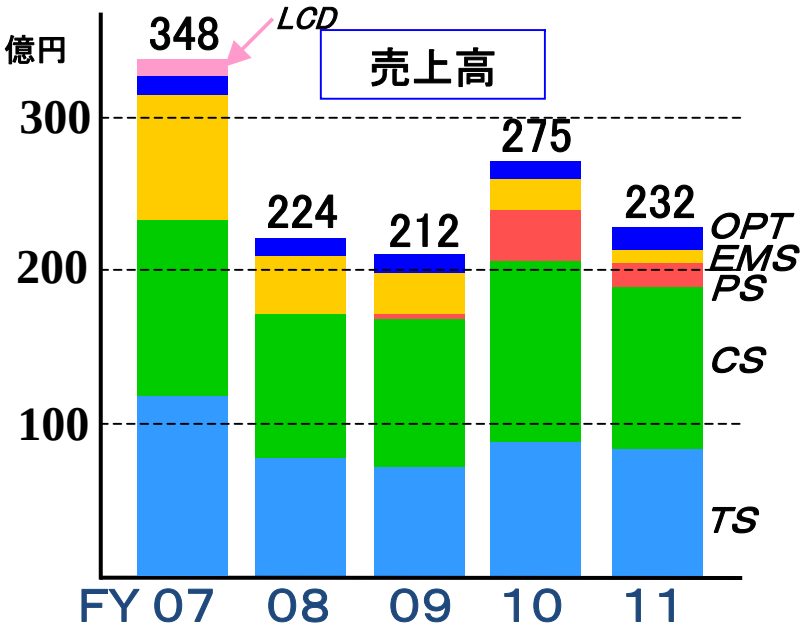
経常利益
　為替差損　0.8億円

当期純利益
　PS固定資産減損
　　4.7億円
　法人税調整額
　　0.6億円

FY2011事業別業績結果について

PS・CS・EMS事業の損益が悪化





	売上高 (億円)			営業利益 (億円)		
	FY10	FY11	前年比	FY10	FY11	前年比
TS	89	84	△5%	6.2	9.1	48%
CS	120	106	△12%	8.7	0.3	△96%
PS	34	17	△51%	△1.2	△11.8	赤拡
OPT	12	15	24%	0.1	0.6	580%
EMS	20	10	△50%	△0.1	△2.7	赤拡
Other				△3.7	△3.2	—
Total	275	232	△16%	10.0	△7.7	赤転

FY2011四半期別事業別業績推移について

		FY2010 (億円)				FY2011 (億円)					
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
TS	売上高	24	29	19	17	18	20	23	23	◎	貸倒引当金 0.2億円
	営業利益	2.8	4.6	△0.4	△0.9	1.1	1.3	3.3	3.4		
CS	売上高	33	34	27	26	27	30	24	25	×	固定資産有姿除却 0.9億円
	営業利益	3.2	4.4	1.1	0	1.3	2.3	△1.3	△2.0		
PS	売上高	7	8	9	10	6	3	3	5	××	貸倒引当金0.8億円 在庫評価減0.5億円
	営業利益	0.1	0.5	△1.3	△0.5	△2.0	△2.5	△2.5	△4.7		
OPT	売上高	3	3	3	3	4	4	4	3	○	
	営業利益	0.1	0	0	0	0	0.2	0.2	0.2		
EMS	売上高	8	5	4	3	2	3	3	2	×	
	営業利益	0.2	0.1	0.2	△0.6	△0.8	△0.4	△0.6	△0.5		
他	営業利益	△1.6	△0.2	△0.3	△1.5	△0.1	△1.5	△1.0	△1.0		
合計	売上高	74	80	62	58	57	61	56	58		
	営業利益	4.8	9.3	△0.6	△3.5	△0.4	△0.7	△1.9	△4.6		

FY2011決算のポイント

TS事業は好調に推移するもPS・CS・EMS事業の悪化をカバーしきれず

	ハイライト	ローライト
TS （テストソリューション）	スマートフォン・タブレット関連IC向けビジネスが好調	PC用途メモリ向けビジネスは谷間 東日本大震災の影響により需要減
CS （コネクタソリューション）	カーナビ・アミューズ向けビジネスは堅調に推移	タイ洪水による需要大幅減 （DSC、プリンタ等）
PS （PVソリューション）		新規商談の成約低迷 市場価格大幅下落・市況低迷 貸倒引当金0.8億円、減損4.7億円
OPT （光関連）	民生向け売上大幅増加 損益構造改革実行	損益構造改革費用0.9億円を計上 下期、タイ洪水による需要大幅減
EMS		PC市況不調により液晶パネルビジネスが大幅減

FY2011貸借対照表

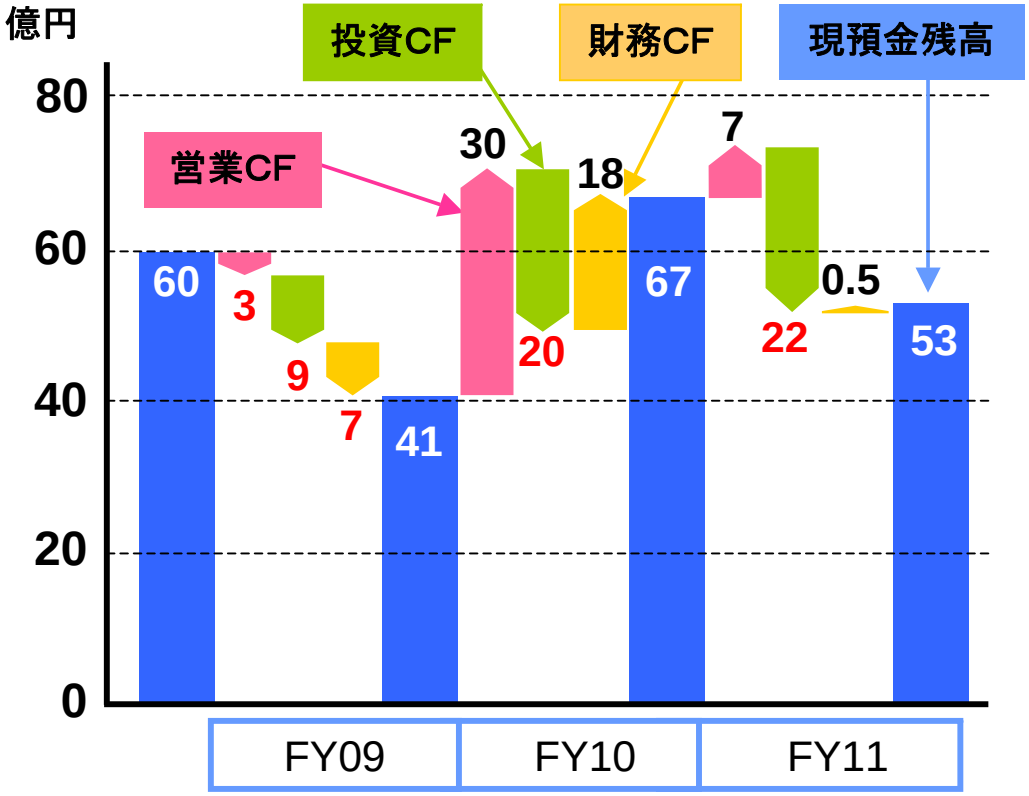
現預金53億円、自己資本比率57%

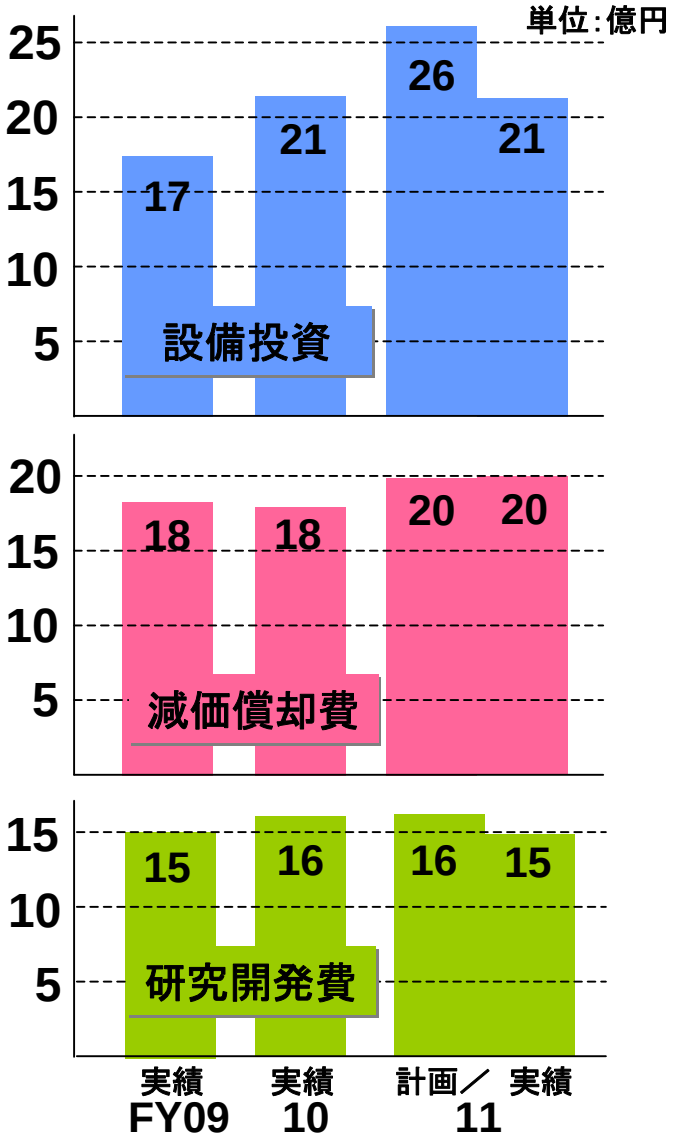
単位:億円

	2010.3末	2011.3末	2012.3末	前期比増減	
流動資産	157	151	137	△14	← 売上減による現預金減少
現金及び預金	41	67	53	△ 14	← 現預金53億円
受取手形・売上金	74	43	45	2	
棚卸資産・その他資産	42	41	39	△ 2	
固定資産	130	133	125	△ 8	
有形固定資産	102	108	102	△ 5	← PS事業の固定資産の減損4.7億円により減少
無形固定資産	2	2	1	△ 1	
投資・その他資産	26	23	22	△ 1	← 投資有価証券評価減1.4億円
資産合計	287	283	262	△ 21	
流動負債	115	103	97	△ 6	
支払手形・買掛金	42	19	16	△ 3	← 売上減による仕入の減少
短期借入金	54	67	63	△ 4	← 長期(1年内)借入金の返済
その他負債	19	17	18	1	
固定負債	13	13	15	2	← 長期借入の増加
負債合計	128	116	112	△ 4	
株主資本	167	178	163	△ 15	← 当期純損失15.4億円
純資産合計	159	167	150	△ 17	

FY2011CF・設備投資・減価償却費・研究開発費

キャッシュフロー



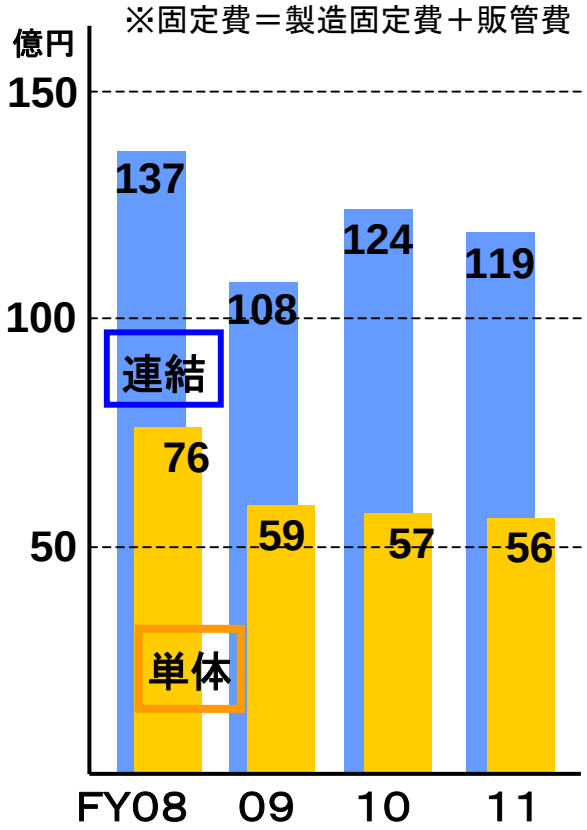


FY2011コスト構造

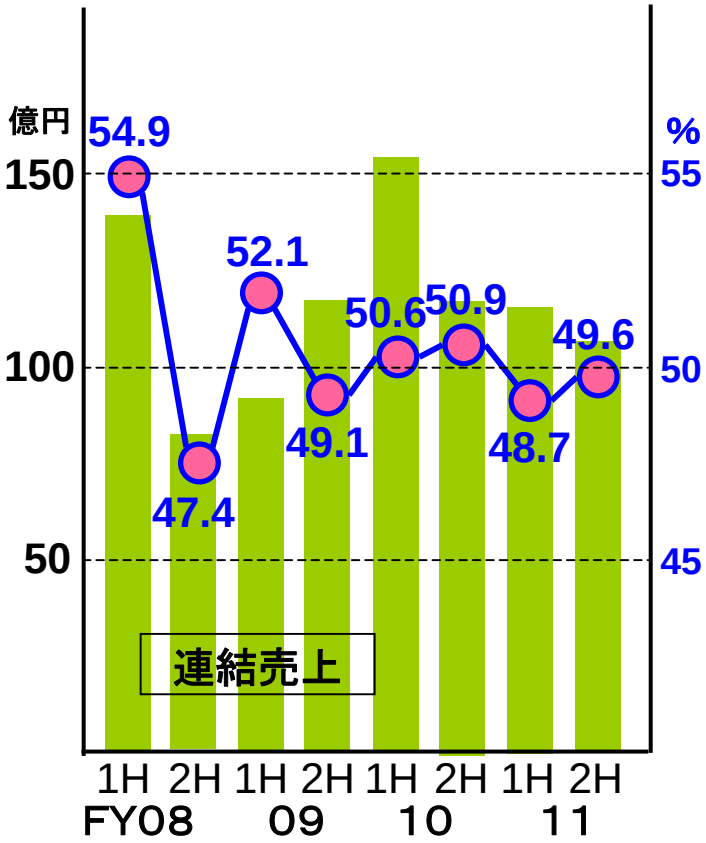
コスト構造の改善を継続する

連結/単体　固定費

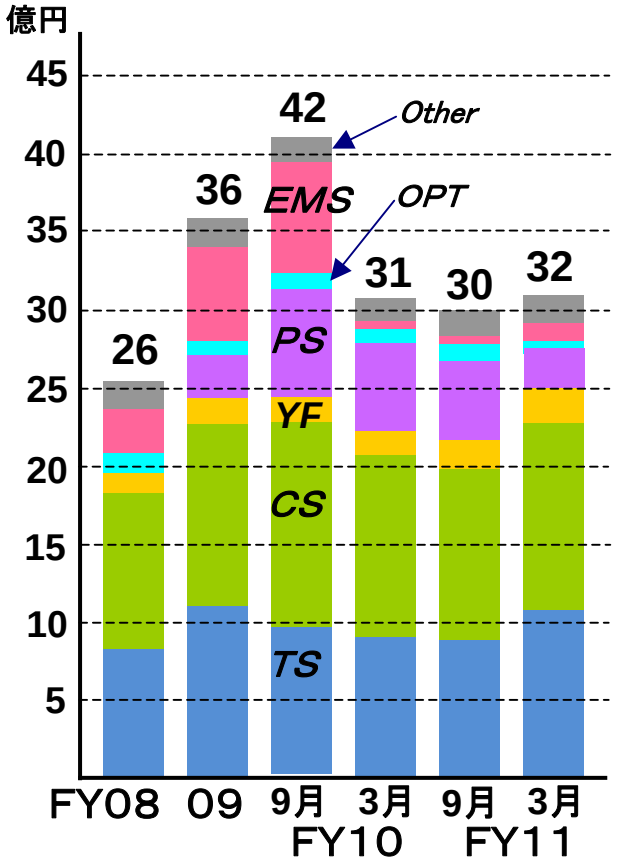
※固定費＝製造固定費＋販管費



連結売上変動費率



連結事業別在庫額



ご説明内容

【1】山一電機について

【2】FY2011業績について

【3】FY2012業績見通しについて

【4】今後の成長戦略について

FY2012業績見通し

FY2012黒字化

単位：億円

	FY2011	FY2012（予想）			
	通期	上期	下期	通期	前期比
連結売上	232	113	127	240	3.5%
営業利益	△7.7	0.3	3.7	4.0	黒転
営業利益率	△3.3%	0.3%	2.9%	1.7%	—
経常利益	△7.9	△1.0	3.0	2.0	黒転
当期利益	△15.4	△1.3	1.6	0.3	黒転
EPS	△66.7円	△5.6円	6.9円	1.3円	

EPS＝当期純利益÷発行済み株数

PS事業の損失を大幅に圧縮

EMS事業を黒字化

CS事業の損益の改善

FY2012は黒字化

FY2012事業別業績見通し

前期不振の事業を改善し、黒字確保へ

		通期比 実績	通期比 予想	通期比 億円	半期比 実績	半期比 実績	半期比 予想	半期比 予想
		FY11	FY12	前期比	FY11 上期	FY11 下期	FY12 上期	FY12 下期
TS	売上高	84	86	2 %	38	46	42	44
	営業利益	9.1	7.7	-15 %	2.4	6.7	4.4	3.3
CS	売上高	106	112	7 %	57	49	52	60
	営業利益	0.3	1.6	533 %	3.6	-3.3	-0.9	2.5
PS	売上高	17	8	-50 %	9	7	4	4
	営業利益	-11.8	-3.0	-75 %	-4.6	-7.2	-1.5	-1.5
光	売上高	15	15	—	8	7	7	8
	営業利益	0.6	0.8	33 %	0.2	0.4	0.2	0.6
EMS	売上高	10	18	78 %	5	5	7	11
	営業利益	-2.7	0.5	黒転	-1.2	-1.5	-0.1	0.6
他	売上高							
	営業利益	-3.2	-3.6		-1.6	-1.6	-1.8	-1.8
合　計	売上高	231	240	4 %	118	114	113	127
	営業利益	-7.7	4.0	黒転	-1.1	-6.6	0.3	3.7

TS事業
- バーンイン用途シェア拡大
- テスト用途大幅増

CS事業
- タイ洪水で減退した需要の回復
- 通信インフラ向け売上の拡大
- 産業機器向け売上の拡大

PS事業
- 投資や固定費を最小化

光関連事業
- 生産・販売のグローバル化

EMS事業
- 国内EMSが新規顧客獲得で黒字化

ご説明内容

【1】山一電機について

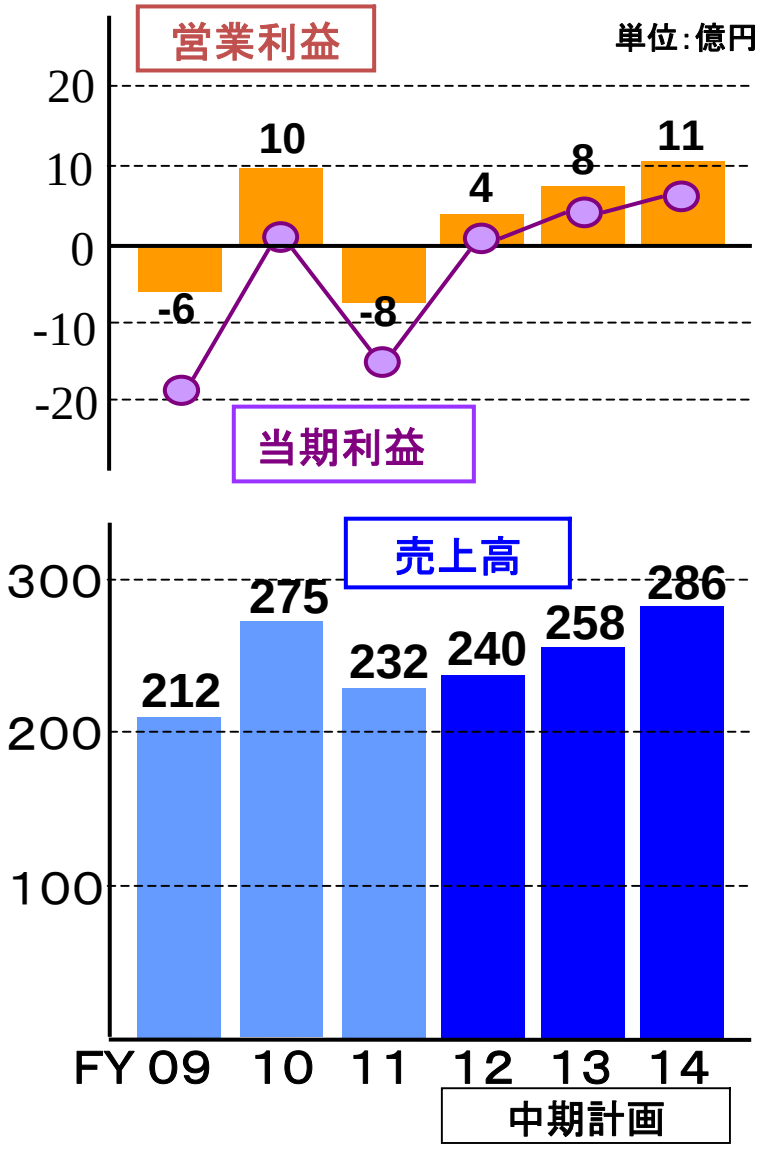
【2】FY2011業績について

【3】FY2012業績見通しについて

【4】今後の成長戦略について

中期計画

各事業基盤を強化し、業績安定化へ



単位:億円

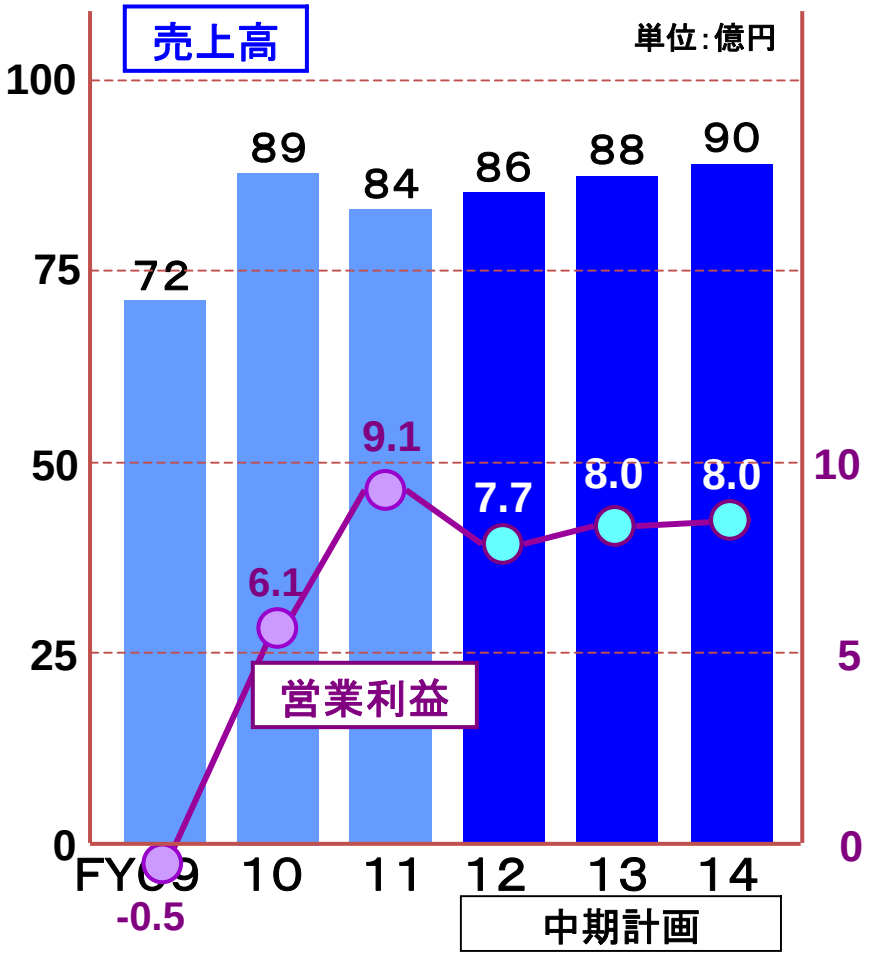
	FY2011	FY2012	FY2013	FY2014
	通期	通期	通期	通期
連結売上	231	240	258	286
営業利益	△7.7	4.0	8.0	11.0
営業利益率	△3.3%	1.7%	3.1%	3.8%
経常利益	△7.9	2.0	6.7	9.7
当期利益	△15	0.3	4.0	5.8
EPS	△66.0円	1.3円	17.2円	24.9円
ROE	△9.7%	0.2%	2.7%	3.9%

EPS＝当期純利益÷発行済み株数

ROE＝当期純利益÷自己資本

テストソリューション事業

着実に利益を確保する



バーンイン用途

車載・スマホ向けシェアアップ

テスト用途

WW各拠点でのサービス体制の充実と
差異化製品の投入でシェアの倍増

テストサービス事業

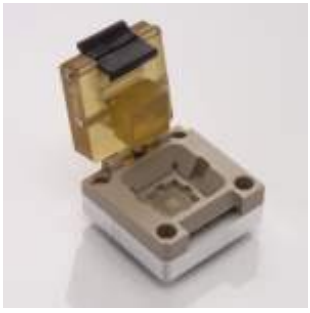
成長基調をさらに加速する

差異化製品の開発強化

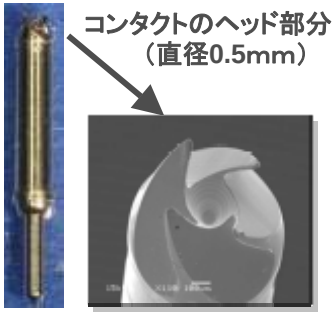
バーンイン ソケット



テスト ソケット

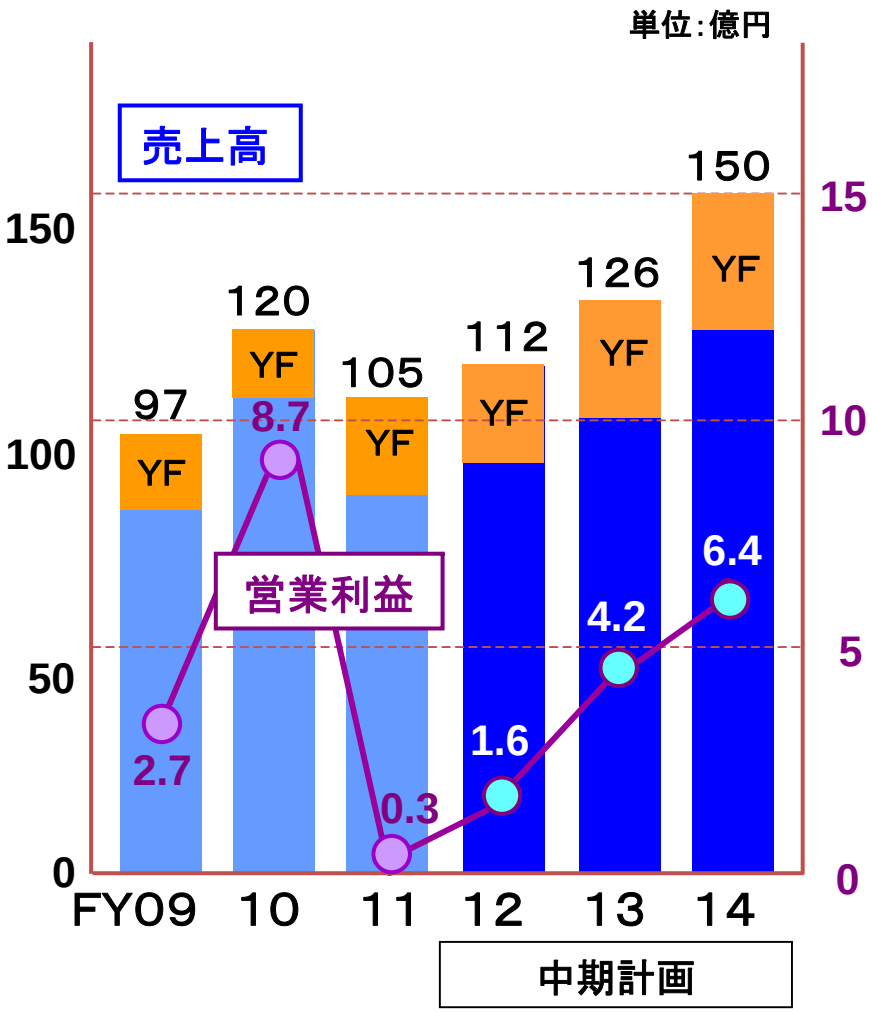


プローブピン



コネクタソリューション事業

「成長エンジンとするコア事業」への転換途上



高速伝送市場

民生向けと通信インフラ向けビジネスの拡大
YFLEX多層基板製品の市場投入

産業機械市場

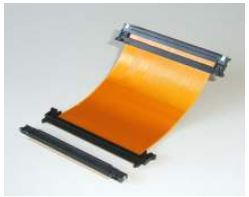
防塵防水産機コネクタ、溶接結合大電流端子等の新製品を欧州市場に投入

車載市場

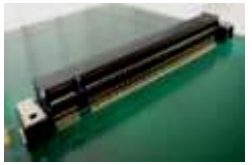
車載用情報機器の新規格コネクタ、車載用カードコネクタ、YFLEXなどの売上を拡大

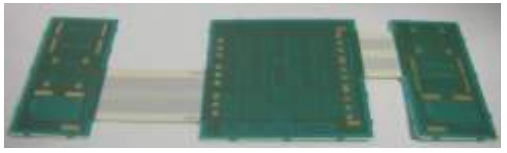
通信インフラ系	民生系	欧州産機向け	車載向け


光モジュールケーブル

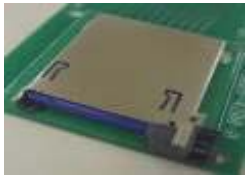

コネクタ＆YFLEX


防塵防水産機コネクタ


車載用情報機器向けコネクタ

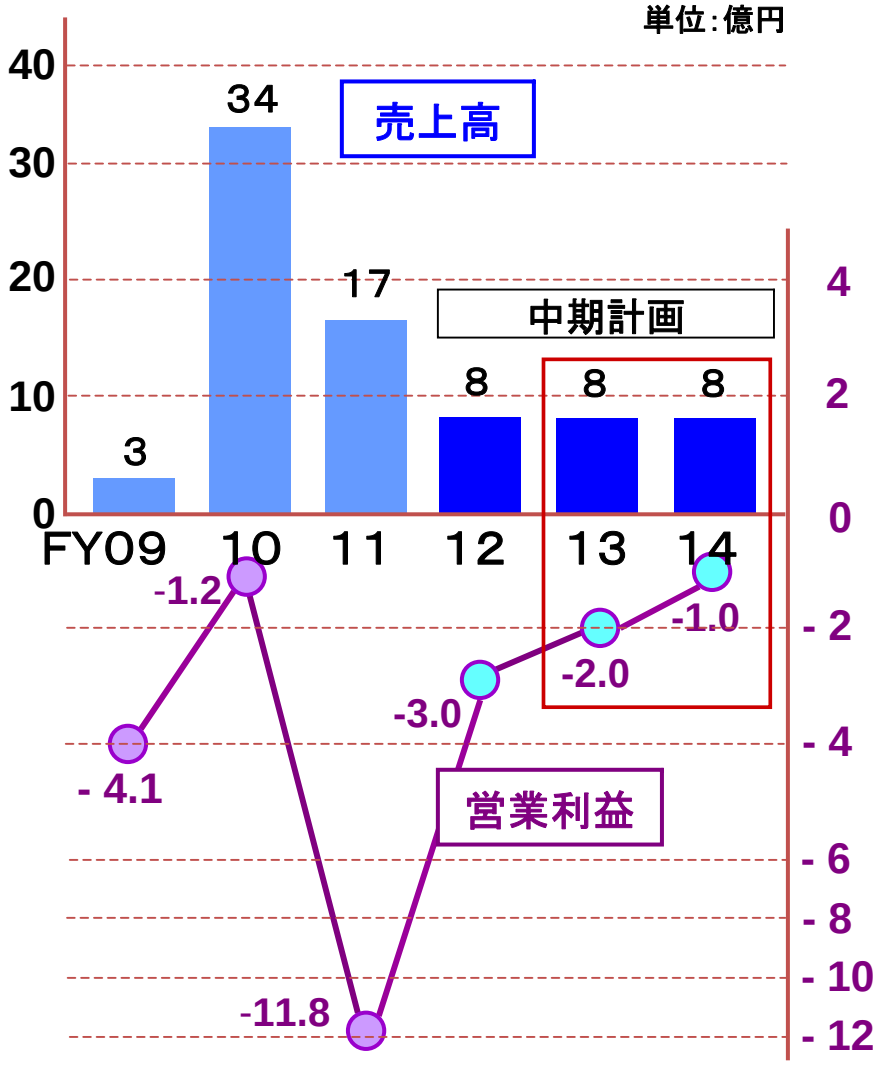

YFLEX：リジットフレキ基板


溶接結合大電流端子


車載用カードコネクタ

PVソリューション事業

最小化事業体制で、事業の方向性を決定する



既存顧客への対応継続

与信管理を徹底したビジネス対応

投資や固定費を最小化

固定資産減損による償却費減額→1.6億円減/年
人員・経費負担割合変更による減額→1億円減/年

技術や設備などの資産を活用

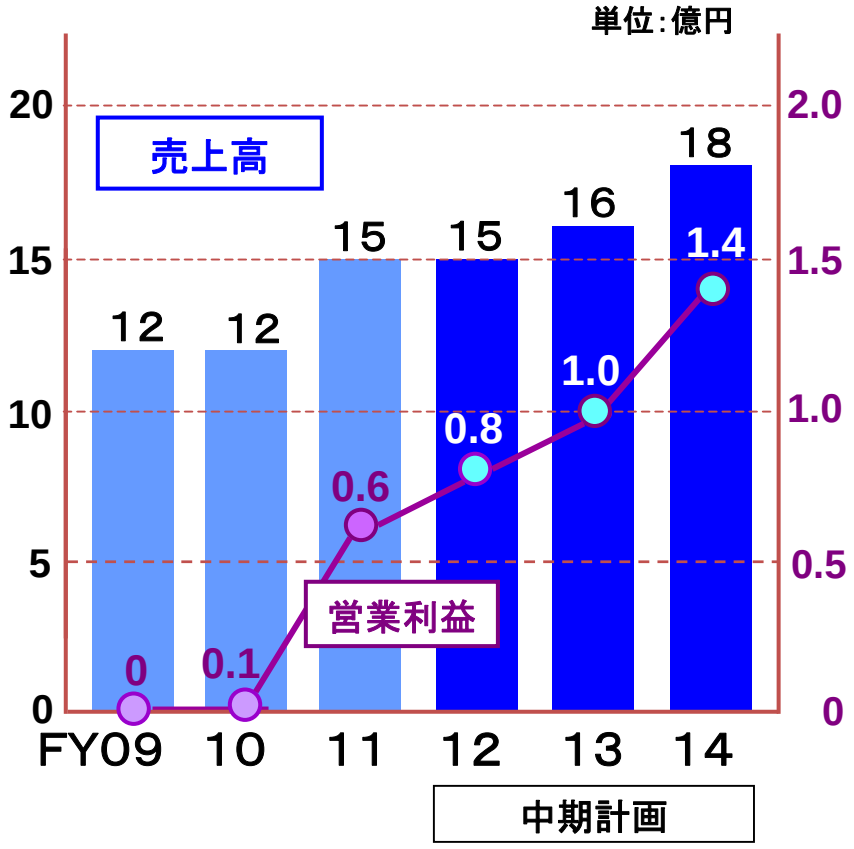
大電流技術と設備転用で溶接結合大電流端子受注



各種溶接結合大電流端子製品

光関連事業

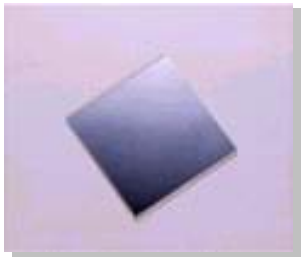
経営改革で高収益体質に



光関連事業（光伸光学工業）

市場においては、通信速度が加速的にハイスピード化

通信インフラ用途、端末ユニットの需要に固有技術で応え続ける



DSC/DVC向け樹脂低反射ND



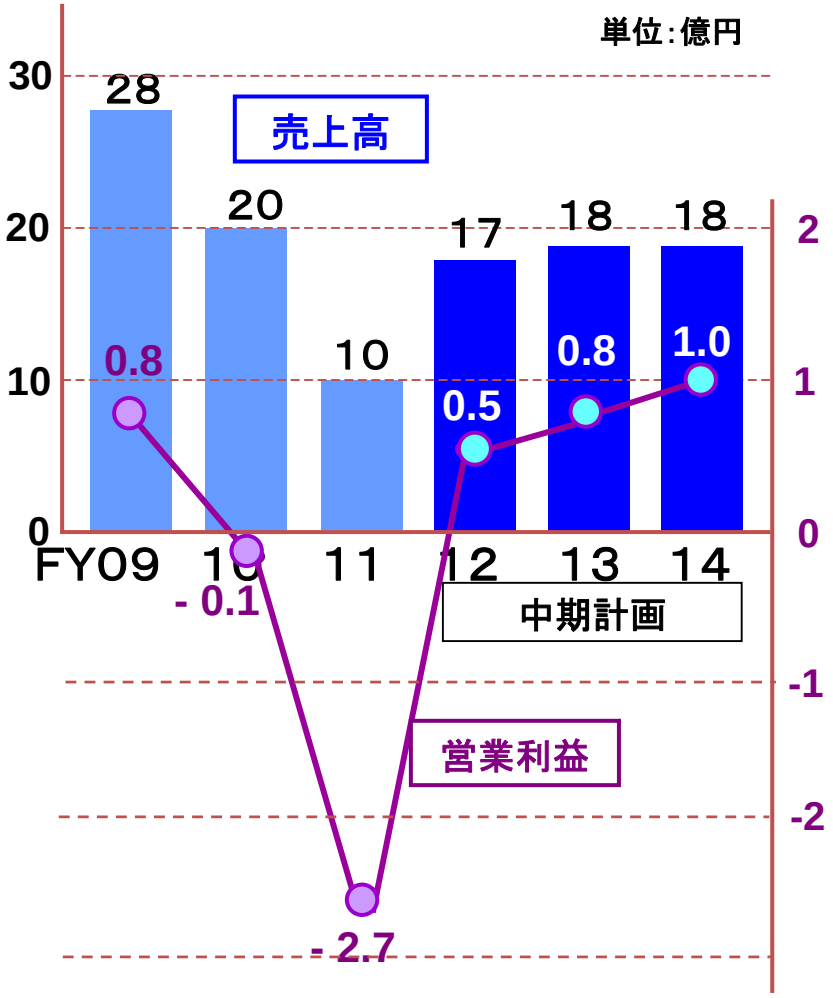
波長可変量子ドットレーザ光源

波長可変量子ドットレーザ光源

情報通信研究機構（NICT）と共同開発。
将来新しい周波数帯（１μｍ帯）を利用した
超高速・大容量光通信の道を拓く。

EMS事業

事業基盤の強化を推進



EMS事業（国内：マティ、フィリピン：PMI）

マティ

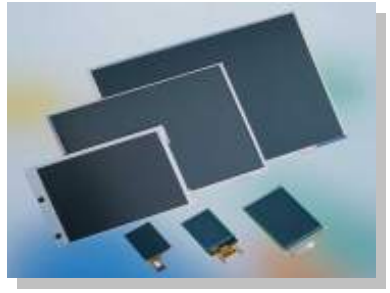
新規顧客向けビジネスの獲得（2Q量産開始）により黒字化

PMI 基板実装事業

販売プロダクトミックスの転換により収益性を改善中



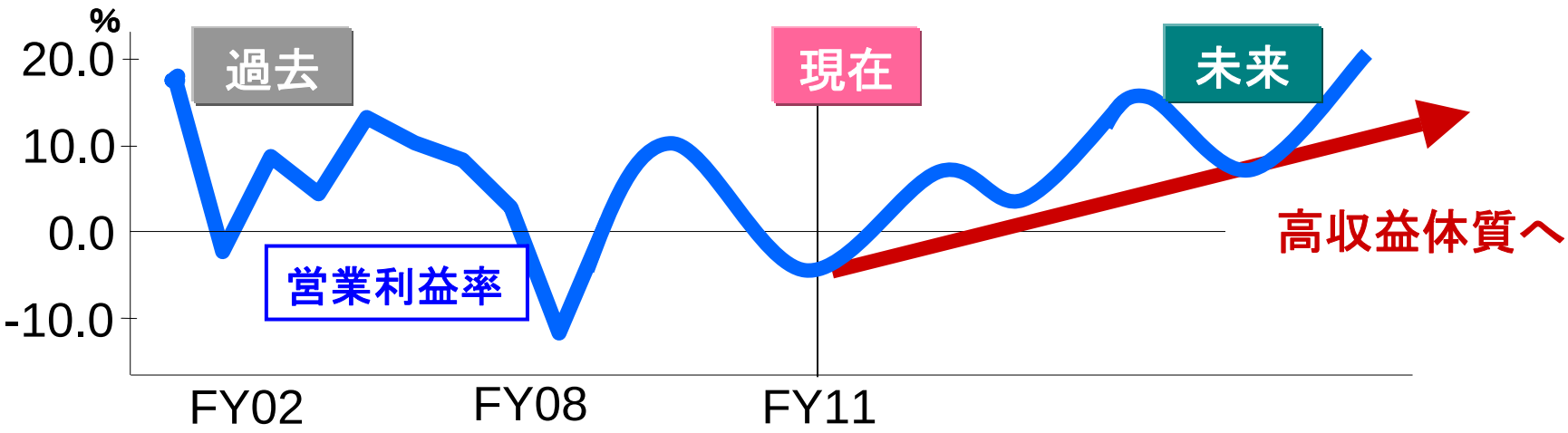
HDD向け基板製品

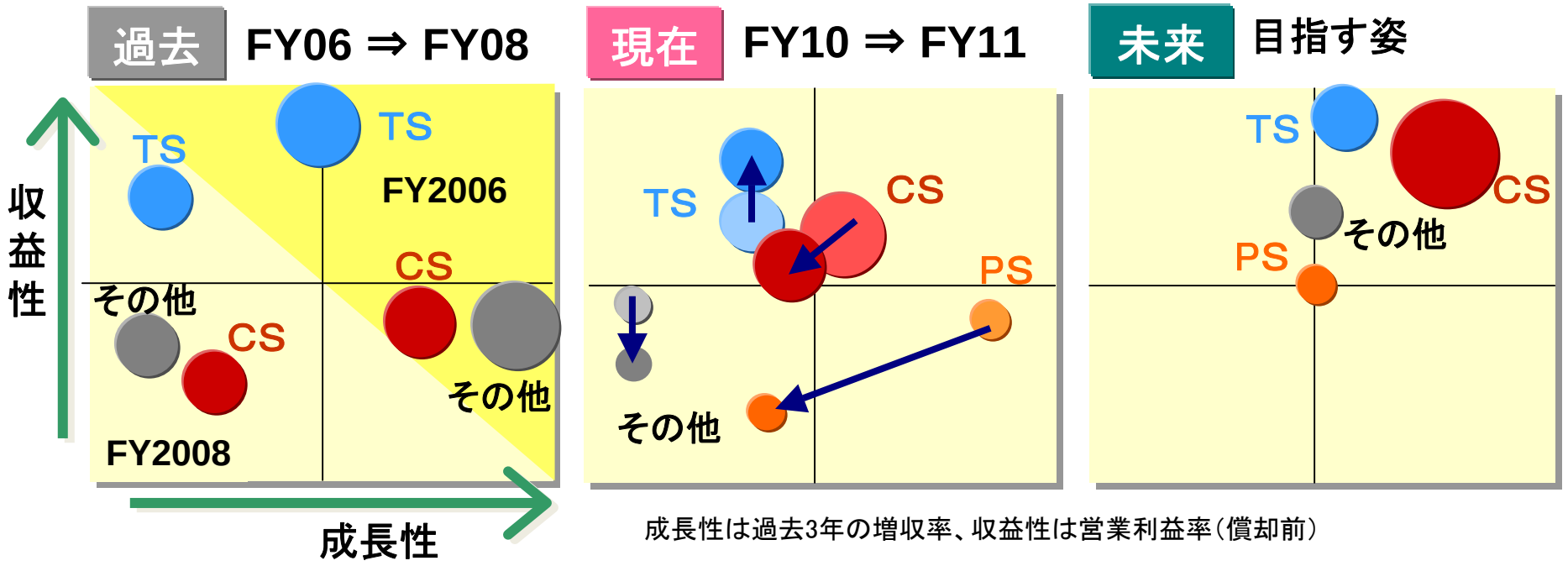


液晶組立製品

過去・現在・未来

安定的な高収益体制を目指す：成長ドライバーはCS事業



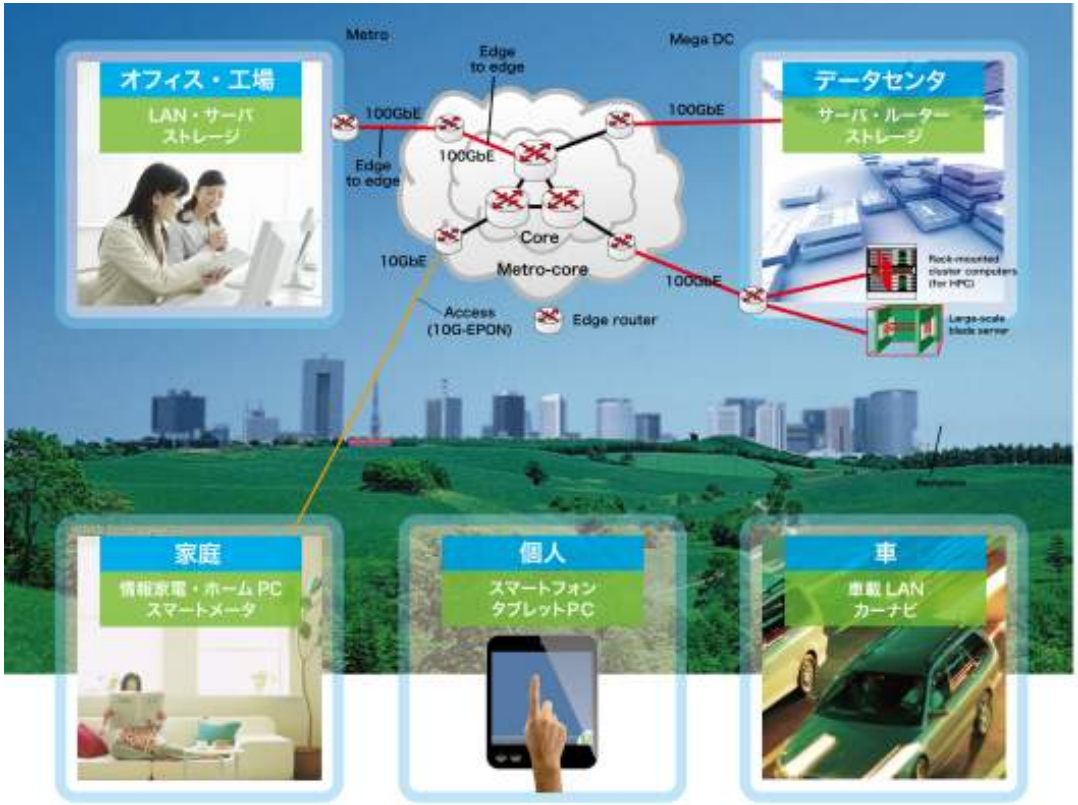


成長性は過去3年の増収率、収益性は営業利益率（償却前）

CS事業の成長戦略

急激に拡大する情報通信データ関連市場

情報処理・通信の膨大なデータを「つなぐ（インターコネクト）」技術があらゆる領域で必要となる
それを実現するハード部品は　コネクタ、ケーブル、送受信モジュール
要求事項は　大容量化　と　低電力化　➡　高速化、光化
当社のコネクタ技術、YFLEX技術、光技術、EMS技術が提供します



テレコム・データコム市場

2010年12.8兆円
➡ 2015年16.7兆円
（Infonetics　Research社）

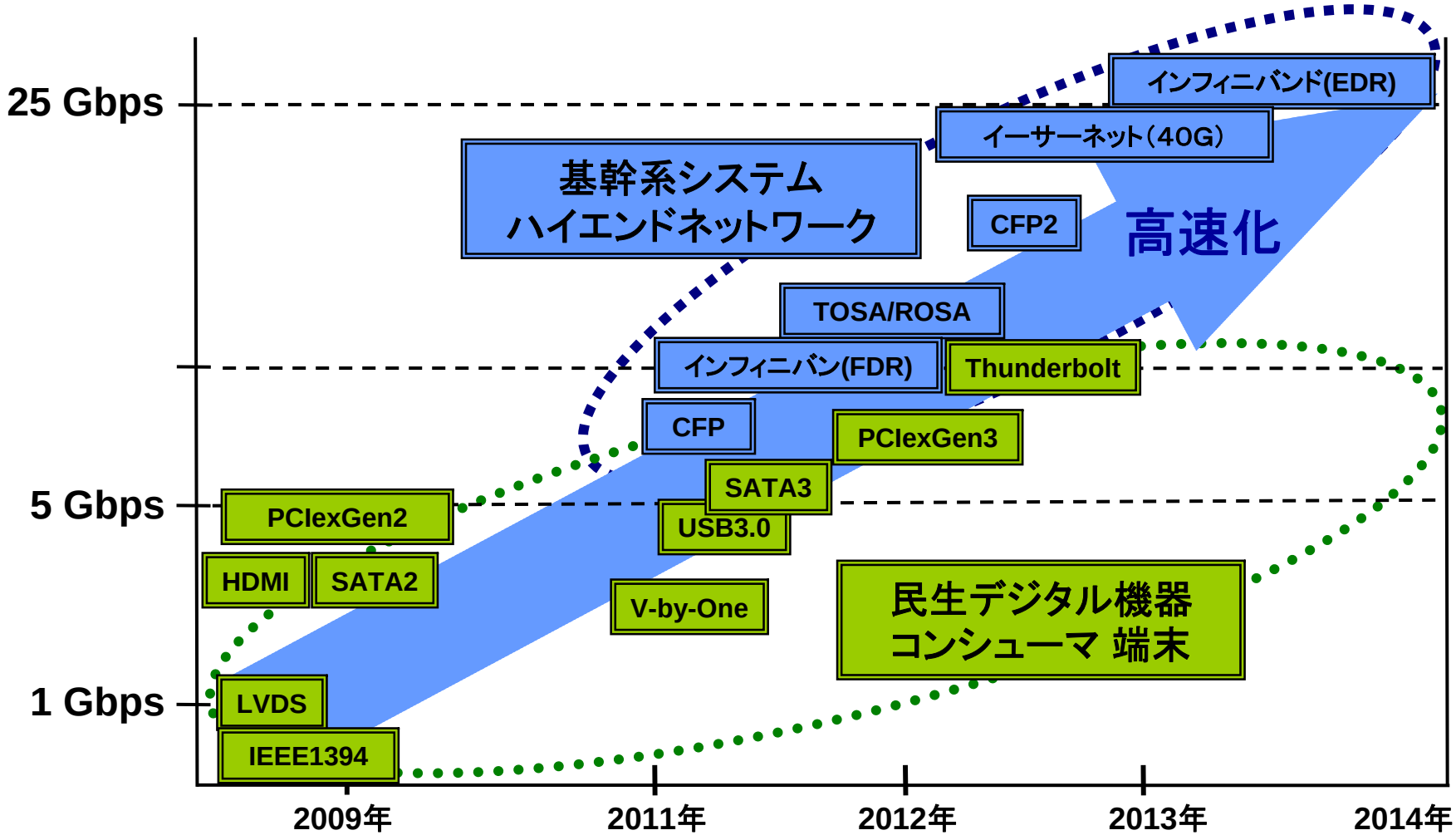
カーエレクトロニクス市場

2010年18.5兆円
➡ 2020年29兆円
（富士キメラ予測）

CS事業の成長戦略

通信データ量増大に伴い、伝送高速化が加速

民生デジタル市場に加えて　高付加価値製品である基幹系システム市場にも参入



ご清聴ありがとうございました。

※注意事項

本資料は、2012年5月18日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものでありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：経営管理部広報課　笹川康彦

TEL：03-3778-6153　FAX: 03-3778-6171

http://www.yamaichi.co.jp

E-mail: sasagawa@yamaichi.co.jp